

<平成26年度秋季大会シンポジウム>

魚類の初期生活史研究の最前線

日時・場所：平成26年9月22日（月）9:00～17:05・（大会実施委員会にて記入します）

企画責任者：望岡典隆（九大院農）・木下 泉（高知大海洋研）・立原一憲（琉球大理）・
河野 博（海洋大）・南 卓志（福山大生命工）

9:00～ 9:05	開会の挨拶	望岡典隆（九大院農）
I. DNA バーコーディングによる分類		座長 望岡典隆（九大院農）
9:05～ 9:30	1. 分離浮性卵の同定	川上達也（東大大気海洋研）
9:30～ 9:55	2. ウナギ目葉形仔魚の同定	田和篤史（九大院農）
9:55～10:20	3. 深海底棲性魚類仔魚の同定と初期発育	高見宗広（東海大海洋）
10:20～10:25	休憩	
II. 環境変動と初期生活史戦略		座長 河野 博（海洋大）
10:30～10:55	1. 干潟・塩性湿地における仔稚魚の生息場所利用	加納光樹（茨城大広域水圏セ）
10:55～11:20	2. ドロクイ類仔稚魚の生活史戦略と泥干潟の重要性	上原匡人（沖縄水海研セ）
11:20～11:45	3. 砂浜海岸における環境変動と仔稚魚の動態	荒山和則（茨城内水試）
11:45～12:10	4. 藻場における環境変動と仔稚魚の動態	上村泰洋（水研セ中央水研）
12:10～12:35	5. 内湾における環境変動と仔稚魚の動態	八木佑太（水研セ日水研）
12:35～13:30	休憩（昼休み）	
III. 分散と加入機構		座長 立原一憲（琉球大理）
13:30～13:55	1. 河川性ハゼ類の加入機構	前田 健（沖縄科学技術大）
13:55～14:20	2. サンゴ礁池における仔稚魚の加入機構	石原大樹（水研セ国際水研）
14:20～14:45	3. 両側回遊性ハゼ類仔稚魚の海洋分散戦略	飯田 碧（琉球大理）
14:45～14:55	休憩	
14:55～15:20	4. 浮魚（サバ類）の分散と加入機構	高橋正知（水研セ瀬水研）
15:20～15:45	5. 浮魚（アジ類）の分散と加入機構	原田慈雄（和歌山県水試）
15:45～16:10	6. 底魚の分散と加入機構	富山 毅（広大院生物圏科）
16:10～16:20	休憩	
16:20～17:00	総合討論	座長 木下 泉（高知大海洋研）
17:00～17:05	閉会の挨拶	南 卓志（福山大生命工）

企画の趣旨

魚類の初期生活史の解明は資源変動機構を理解する上で極めて重要な基礎的課題である。しかしながら、日本産魚類約4200種のうち、仔稚魚期の形態と分類が明らかになっている種数はその3分の1にも満たず、その中には水産重要種も含まれる。本シンポジウムでは、DNA情報に基づく卵仔

稚魚の種同定に関する最新の知見、緻密なフィールドワークによる浅海域仔稚魚の環境変動に対する応答、多様な水域に生息する魚類の分散と加入機構に焦点をあてて最新情報を集め、現状と課題を整理し、今後の魚類初期生活史研究の展開を議論する。

